

三重県図書館協会報 2015年3月31日発行

協会だより No.66

目次

ラーニングcommons始動1年を経て.....1
トピックス
～図書館をめぐる話題から～.....2
平成26年度図書館活性化推進事業のご報告..4
新館案内.....8
ブックエンド.....8

編集・発行 三重県図書館協会=津市一身田上津部田 1234 三重県立図書館内 電話:(059)233-1181

ラーニングcommons始動1年を経て

皇學館大学附属図書館 池山幸志

ラーニングcommonsとは、学生が主体的・協同的に学修する知的コミュニケーション空間のことを言います。皇學館大学附属図書館では、自由に議論し、共に学び合う場として平成26年3月にラーニングcommonsを開設しました。

本学図書館は2階閲覧室のフロアから約7割の書架を撤去し、広々としたスペースを確保しました。このフロアに、可動式の机や椅子、ホワイトボードを用意し、学生たちが自身の用途に合わせた形で自由に組み合わせて利用することができます。そのほか、デスクトップPCの台数増加、ノートPC、iPad、電子黒板、プロジェクターなどの電子機器を導入すると同時に、学生への館内貸出も始めました。貸出用ノートPCやiPadは、図書館に設置された無線LANによりWiFiでインターネットに接続することもできます。

対話ができる空間であるならば、飲料水が飲めたほうがいいだろうと考え、ペットボトルのような蓋付きの容器の持ち込みも許可しました。また、本学図書館では学修する場所や空間を提供するだけでなく、図書館スタッフが常駐するサポート

デスクを設置し学修支援を始めました。サポートデスクでは主に「論文書き方支援」「図書の探し方サポート」などの各種レファレンス、「くずし字学修支援」、「英語学修支援」これら3つの学修支援を行っています。くずし字学修支援と英語学修支援には専門知識を兼ね備えたスタッフを配置し、学生からの質問に対し学生と共に考えるスタンスで対応しています。英語学修支援では、学生からの学修相談にとどまらず、英語の専門教員と連携し「ブレ英検」を実施しています。そこでは面接練習など本番を想定した対策を行うなど、学生が目標とする階級の合格に向けたサポートを行っています。

平成26年度は、入館者数が昨年と比較すると約20%増加しました。入館者数増加の主な要因としては、ラーニングcommonsの設置により図書館での学修に自由度が増し、以前よりも気軽に入館しやすくなったことが挙げられます。そのほか、利用者の図書館利用方法にも変化が出てきました。統計によると、入館者数が増加したにも関わらず、貸出冊数が例年と変わらなかったという結果が出ました。この結果から、学生の図書館利用方法が長時間図書館を利用す

る「滞在型」の学修方法に変化しつつあるのではないかと考えることができます。実際に、貸出用ノートPCの貸出件数が1ヶ月に700件を超える月もあり、長時間に及ぶレポート作成等の作業をする学生が増えているのを実感します。

学生は図書館スタッフが考えていた以上に様々な用途でラーニングcommonsを利用し、時には想像を超えた発想で我々を驚かせてくれました。図書館を利用する学生達により、ラーニングcommonsは毎日会話や議論の飛び交うコミュニケーション空間として定着させることができました。これが学生の学修にどのように影響するか数字で表すことはできませんが、今後も図書館スタッフは利用者のニーズや学修内容の変化に対応し、日々学生が学修しやすい環境作りに取り組んでいきます。



館内の様子

トピックス

図書館をめぐる話題から

「コミュニティスクール」 支援について

多気町立勢和図書館

司書 林千智

「地域全体で子どもを育てる」というコミュニティスクール制度（以下、CS）。地元、中学校区（小・中）は、文科省の指定を受け、2013年度から準備、2014年度は実践・研究に取り組みました。

当館には、2013年度初めに学校側より、方向性策定の段階で相談があり、スタートから協力していくことになりました。まさに「コミュニティスクール」という課題を解決するための「課題解決型支援」です。そして、私が、小・中連携の「CS推進委員」、さらに、小学校CSの中核を担う「SOC」スタッフの一員となり、「学校教育支援」、「市



授業の様子

民活動支援」という形で、2年間、深く関わりました。この活動を通して、子どもたちはもちろん、先生方や地域の方々に、「図書館はこんなふうに使えるのか」という実感を得ていただくことも強く願っています。

そのためには、子ども・先生方・地域スタッフ各々への、確実な資料・

情報提供が最も必要なことだと考えました。そこで、企画会議のたびに、何を子どもたちに伝えていくべきか、様々な資料からその内容や手法を紹介し、資料のリスト化も含め作成した「授業レシピ」（授業案）を提案しました。それをもとに、スタッフで協議し、授業を行いました。

小学校CSの名称は「おまめさんかなあ」プロジェクト。6年前から勢和図書館で行っていたものを学校に移行し、地域全体で行うという、大バージョンアップが図られたのです。「子どもたちの五感を育み、生きる力を培う」という理念は、そのまま引き継がれ、2014年度は、すばらしい一年となりました。

周到な準備と協議、そして信頼関係が欠かせないハードな連携ですが、公共図書館への理解は、格段にアップしました。次年度以降が正念場です。国の動きも注視せねばなりません。文科科学省の狙うCS（学校運

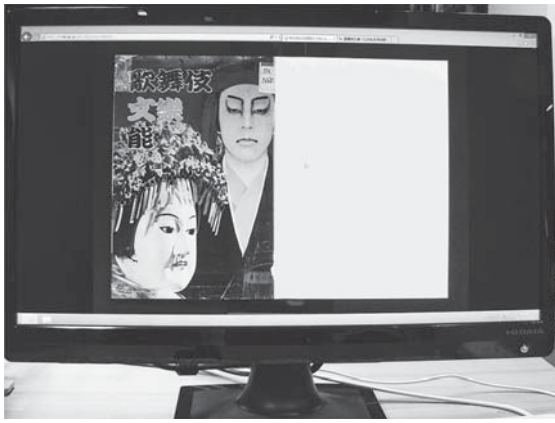
営協議会制度）には、実は、様々な問題があり、懸念が生じています。だからこそ、「公共図書館という機能」をもって、本来の「学校教育」を守りつつ、地域連携の要を担えるよう、考える材料提供に努めなければ、と考えています。

「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」開始について

東員町立図書館 水谷純子

平成25年9月、国立国会図書館による「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の実施要綱が掲載された際、できるだけ早くサービスを開始したいと思いました。

理由は、1件のレファレンスでした。依頼者が中学生だった時（50年前）読んだ詩について知りたいという内容だったので、国会図書館のみの資料所蔵で、該当資料は館外貸出禁止。レファレンスを依頼した



実際の画面（『歌舞伎・音楽・能』日本織物出版社 1954）

のですが、調査は資料内容を精読する必要がありますが、利用者自身の国立国会図書館（東京・関西）での確認作業が必要と言う結果となっていました。期待をされていたので満足はいく回答ができず、資料が手に取れたらと、もどかしく思いました。

実施要綱発表後、10月に愛知県公立図書館長協議会が「国立国会図書館による『デジタル化資料の図書館への送信』に関する情報交換会」を開催され、参加する事ができました。国会図書館の講師の方からサービスの①制度全体・参加申請②システム要件と操作イメージを具体的な事例を交えて説明いただいたので、当館

のシステム要件・運用の要件などを検討するのに変役立ちました。交換会での情報が、早期のサービス開始への後押しとなりました。

サービスは7月から、閲覧・複写を開始しました。町外の方もお問い合わせいただきませんが、図書館カードを発行できない方にはご利用頂けないのが残念です。

複写サービスについては、画像のため心配していたのですが、画像がきれいで、ずれた・ゆがんだといった心配がなく、スムーズに複写ができ、利用される方の複写申請も多くなっています。

今後より一層利用促進に努力したいと思えます。

歴史的音源（れきおん）を導入しました！

三重県立図書館 野島由紀子

歴史的音源（れきおん）とは、歴史的音盤アーカイブ推進協議会（H

iRAC）がデジタル化した音源を、国立国会図書館がデジタルアーカイブとして公開しているものです。

音源の内容は多岐にわたり、尾崎行雄の講演や東郷平八郎の朗読といった貴重な音声や、過去の名人の落語や漫才、歌舞伎の演目といったものから、オペラや歌謡曲、民謡といった音楽まで、幅広いジャンルのものが約5万点公開されています。

インターネット上で自由に聞くことができるのは、著作権（著作権隣接権）の保護期間が終了したもののみですが、保護期間内でも聞くことができます。しかし、三重県内では2014年までこれを聞くことのできる図書館がありませんでした。

2014年9月に、皇學館大学附属図書館が三重県初の配信提供参加館になり、続いて2015年2月に当館も県内2館目の配信提供参加館として、歴史的音源を聞いていただけるようになりました。

図書館向けデジタル化資料送信サービスに比べ知名度が低いサービスで、当館の宣伝も十分でないため、現時点ではまだ利用がありませんが、ボランティアの方や当館協議会の委

員の方に試していただいたところ評判も良く、サービスが認知されいくにつれ利用が増えていくと見込んでいます。

当館では新しくパソコンを置くスペースがなかったため、すでにあった商用データベースおよび国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス用に提供しているパソコン3台を活用してサービスを提供しています。今後利用が増えてきた場合にどのようにパソコンを共用するかが課題となってくると思われ

歴史的音源（れきおん）のURL
<http://rekon.dl.ndl.go.jp/>



館内のPRポスター

平成26年度 図書館活性化推進事業のご報告

平成26年度の協会による図書館活性化推進事業助成では、8館が助成の対象となりました。それぞれの館から、事業のご報告をいただきました。

① 図書館まつり (全7本)	松阪市松阪図書館	10月から2月
② 図書館版「桑名ブランド」の発信	桑名市立中央図書館	3/14
③ 本と一緒に外国の文化にふれてみよう	長島輪中図書館	展示 1/6-2/8 イベント 1/31
④ みんな集まれ! わくわく図書館	鈴鹿市立図書館	2月
⑤ ムーミンと北欧ライフ	東員町立図書館	10/4-12/27
⑥ わたしの町の情報コンシェルジュイベント	あさひライブラリー	6/17-8/31、7/25 10/11-11/30、11/12
⑦ 地域に開かれた小学校図書館づくりの事業II	みなみいせ図書室	通年
⑧ 絵本を楽しむ 絵本で楽しむ	鈴鹿短期大学図書館	11/29

① 松阪市図書館 図書館まつりのご報告

松阪市松阪図書館 服部みどり

松阪市松阪・嬉野図書館では、平成26年度図書館活性化推進事業の助成を得て、平成26年10月より平成27年2月にかけて「松阪市図書館図書館まつり」と銘打ち、七つの催事を行いました。

初めての試みもあり試行錯誤が続きましたが、スタッフ一丸となって取り組むことの大切さを学ぶことができました。中でも全体の催事に共通したポスターを作成し、長期間・広範囲にわたって広報できたことで、県内から多くの方々にご参加いただくことができました。

またこのような機会があれば、さらに充実した事業を開催したいと思っています。



①あおぞらおはなし会の様子

② 図書館版 「桑名ブランド」の発信

桑名市立中央図書館 松永悦子

桑名市立中央図書館には、江戸時代の桑名藩校立教館の関連資料を集めた「秋山文庫」をはじめ、「伊藤文庫」「堀田文庫」「北村文庫」の4つの地域文庫があり、現在、昨秋に寄贈を受けた、東洋学者貝塚茂樹の著作や蔵書を集めた「貝塚文庫」

の整備を行っています。

地域資料や文庫は、そのまちの図書館だからこそ存在する特別なコレクションです。今回の事業では、当館開館10周年の記念事業として、図書館の「ブランド」である地域資料をPRする取組を企画しました。

文庫の概要をわかりやすくまとめた冊子の作成・配布を行い、また120名の聴衆を前に、各文庫ゆかりの方々(文庫の特色を知る歴史の専門家や、それぞれの人物と交流のあった方など)に、文庫のエピソードや、作者の人となりについて語っていただく講演会を開催し、地域資料を通じて、図書館の魅力を再発見していただく機会となりました。

今後も図書館を市民の皆さんにより身近に感じてもらえるよう、多様な視点から、情報発信をしていきたいと思えます。



②地域文庫コレクション冊子表紙

③本と一緒に外国の文化 にふれてみよう

長島輪中図書館 天野晴美

借成社の協力を得て、『世界のともだち』シリーズから12か国、計60点の写真パネルを使った写真展を開催しました。写真展期間中、モンゴルの取材を担当した写真家・清水哲朗氏をお招きし、トークライブを行いました。モンゴルの民族衣装の紹介、お菓子の試食会も行い、日本語が堪能なモンゴル人パティシエのニヤムバイヤルさんが説明し、モンゴルのお菓子5種類、岩塩入りミルクティーを会場の参加者全員で試食しました。清水さんが沢山の映像と写真



③写真展の様子

イベント終了後、参加者より「非常によかった。楽しかった」とのお声を沢山頂戴しました。本をきっかけにして「見ること・聞くこと・食べること」からモンゴル文化を体験し、本では伝えきれない部分の異文化体験をしていただきました。



③モンゴルのお菓子

を使って、楽しくお話をされた後、ニヤムバイヤルさんが衣装を身につけ家族全員で登場してくれたため、会場は終始和んだ空気の中、笑顔の絶えないイベントになりました。

④「みんな集まれ！わくわく図書館」を開催して

鈴鹿市立図書館 北川清美

鈴鹿市立図書館では、平成26年度に鈴鹿市立図書館サービス方針を策定し、更なるサービスの向上を目指して業務に取り組んで参りました。

そのひとつとして、平成26年度活性化推進事業を活用した「みんな集まれ！わくわく図書館」を延べ9日間にわたって実施し、図書館ボランティアの育成とボランティアとの協働・連携によって図書館利用の活性化を図るとともに、子どもをターゲットにした啓発活動を行い、読書意欲につなげたいと考えました。

当館では初めての試みばかりで、不安もありましたが、多くの方に参加していただき、成功裏に終了することができました。特に、読み聞かせボランティアグループの皆さんには、大変な労力を費やしていただき、その丹精のこめられた作品は、子どもたちばかりでなく、大人も魅了さ

せられました。

また、ボランティア育成事業としては、読み聞かせと本の修理講座を開催しました。どちらも予定人数を超える申し込みがあり、市民のボランティア意識の向上を実感しました。講座終了直後にボランティアとして活動し始めた方もあり、成果が見える取り組みとなりました。



④ボランティアの作品

⑤ムーミンと北欧ライフ

東員町立図書館 水谷純子

世代を超え多くの人々に愛され続けるムーミン。生誕100周年を迎えたトーベ・ヤンソンに関する資料と、ムーミンを生んだ北欧諸国の自然・文化・教育・インテリアなどに関する資料を特設しました。同時に、ワークショップで行う北欧のクラフトを館内すべてに展示し、書棚の空間でクラフトを通し、風や光を楽しんでいたできました。



⑤町民が描いたイラスト

ゼント（平均年齢90歳のおばあちゃんの手作り北欧人形）ありと、盛り上がりました。催しを通し、たくさんの方々に参加頂き、「図書館ってこんな事もするんですね！」と言われ、新しい一面を見せる事ができたようです。



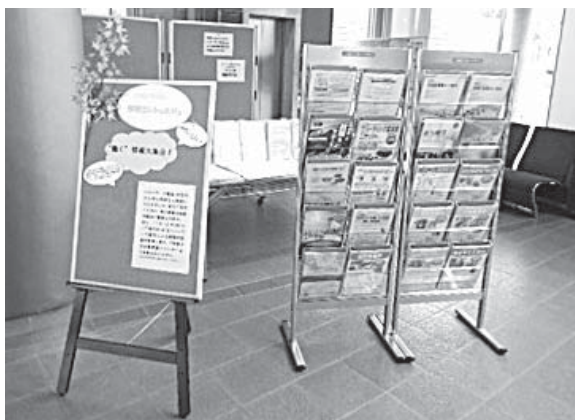
⑤展示風景

⑥わたしの町の

情報コンシエルジュ

あさひライブラリー 一木万希子

図書館を気軽に利用して欲しい、とにかく足を運んで欲しいという思いから、本だけでなく生活に役立つ情報もあることを知ってもらうために「わたしの町の情報コンシエルジュ」というコーナーを作りました。ここでの情報とは、行政機関や地方公共団体が作成するチラシやリーフレット等で、これらを期間ごとにテーマを設け収集・展示・配布し、また専門家を呼んでの相談会も開催します。



⑥テーマに沿って展示したチラシやリーフレット

員の派遣にご協力いただきました。

今後は関係部署と連携を図りながら当館を情報発信の場として活用してもらい、地域にはどのような課題があり、お客様が今何を求めているかを把握し、地域の情報総合案内所と言えるコーナーを目指したいと思います。

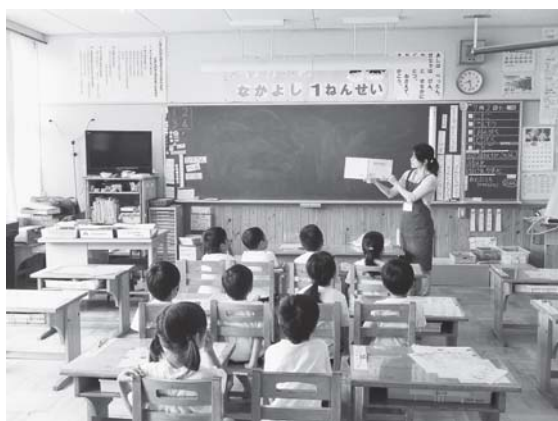
⑦地域に開かれた小学校図書館づくりの事業II

みなみいせ図書室 山本節子

県下一、少子高齢化が進む南伊勢町には、書店が一軒もありません。私達は、地域の方々が本を介して、より心豊かな日々を過ごしていただけるようにと活動しています。

今年度は、南島地域二つの小学校を拠点に「本好きになるきっかけづくり」を重点に置いた取組みを当助成金を活用して行いました。

まず、南島西小学校では児童に本と親しみ、本を楽しんでもらおうと司書が毎週、水・金曜日に32キロ離



⑦小学校での取組



⑧ワークショップの風景

れた小学校へ出向き朝の読み聞かせや図書館の整備を始めました。

子供達は毎回この読み聞かせを楽しみにしており、また昼休みなどには、図書館に来て本を探したり、私達と本の話をすることが多くなりました。

次に南島東小学校では、図書館を地域の皆さんに開放し、スタッフの派遣と一般向けの本を用意して出張コーナーを設け、地域の方々との交流の場として定着しつつあります。

活動は未だ始まったばかりですが、私達の活動が「町づくり」につながっていくことを願っています。

⑧ 「絵本を楽しむ 絵本で楽しむ」を開催して

鈴鹿短期大学図書館 中山真

鈴鹿短期大学図書館では、絵本を通じて、人と人が楽しくかわりあうきっかけやヒントを提供することを目的に「絵本を楽しむ 絵本で楽しむ」を開催しました。

午前は、「絵本と童話の店おきな木」(岐阜市)・杉山三四郎さんによる絵本ライブを上演しました。絵本をスクリーンに映し出しながら、三四郎さんがストーリーに合わせ、ギターの弾き語りをされました。時には大笑いしたり、時にはしんみりしたり、絵本の世界に引き寄せられるライブでした。

午後は、本学各専攻による、ワークショップが行われました。こども学専攻では、世界でたった一つの絵本づくりを、生活コミュニケーション学専攻および健康生活学専攻科では、風邪予防に関する紙芝居の読み聞かせを、食物栄養学専攻では食育を目的としたランチョンマットづくりを、それぞれ行いました。

当日はあいにくの雨天にもかかわらず、多数のご家族にご参加いただきました。今後も地域の皆様に愛され、気軽に立ち寄ることのできる場として、図書館を利用した事業を展開して参ります。



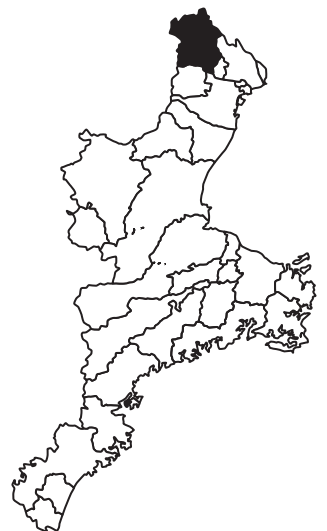
平成27年度も 図書館活性化推進事業にかかる助成金事業を実施します

助成金額 1事業あたり上限20万円
事業採択 コンペ方式(プレゼンテーションあり)
申請期間 平成27年5月下旬から6月中旬(予定)

お問合せ 三重県図書館協会事務局(三重県立図書館企画総務課内)
電話 059-233-1181 ファックス 059-233-1191

新館案内

いなべ市員弁図書館



いなべ市員弁図書館は、平成26年10月1日にいなべ市立員弁東小学校のメディアセンター内へ移転リニューアルオープンしました。センター内の学校図書室と合わさって、館内には学校の資料棚と公共図書館の資料棚が並んで設置されています。開架している蔵書冊数は、学校の資料が約六千冊、公共図書館の資料が約三千冊です。雑誌は24タイトル、新聞は4紙で視聴覚資料はありません。

員弁東小学校は、平成25年2月に新築された建物です。メディアセンター内の図書室は開放的な造りとなっていて、その一角にはゆったりと読み聞かせができる「おはなしコーナー」も設けられています。一般市民への施設開放は、水曜日、木曜日、金曜日の午後1時から5時までです。員弁東小学校の児童は、主に午前の



20分休み、昼休み、放課後に図書室を利用しています。児童と市民の利用が重なるのは午後一番、1時からの20分間。居合わせた利用者は穏やかな表情で子どもたちを見守ってくださいっています。

ブックエンド

『白狐魔記 元禄の雪』

齊藤洋／作
偕成社

津市津図書館
佐部利ひろみ



仙人のもとで修行し化身の術を体得した狐が、歴史上の様々な事件や人々と関わり、人はなぜ殺し合うのか、人とは何かを探求する歴史物語です。

シリーズ6冊目のこちらは忠臣蔵がテーマ。泰平の世に慣れた武士たちの命のやりとりをまるで見守る江戸の町人たちの姿が印象的です。

源平の戦いから始まって巻を追うごとに現代へと近づく物語。どんなクライマックスを迎えるのか、非常に楽しみなシリーズです。

「図書館が移転したことを知らなかった」「学校の中へ入るなんて不審者と思われる心配」「土曜、日曜に開館してもらわないと行きづらい」などのお声をいただくことも多いのですが、少しずつ利用者も増えてきています。小学校に公共図書館が入ったことで、子どもたちにより身近に本を見てもらうことができそうですし、「こんな本、あんな本が読みたい」という声にも気軽に応えやすくなりました。開架できる冊数に限りはありますが、市内の他の3館

と連携して希望の本をやり取りしたり、季節ごとに展開する本を変えたりすることができるようになりました。授業で使うための本探しや図書館についての授業など、学校との連携も進んできています。

私たち図書館員は、この場所を「地域の交流拠点」または「読書への入り口」となるために、名実ともに「小学校とコラボする公共図書館」だからこそできることをこれからも模索し続けて行きたいと思っています。